

2009年度

科目名	仏教学B			
担当教員	貫名 讓			
配当	文 1・教育1・人間1	コード	25070	
開期	後期	講時	火曜日5限	単位数
				2
授業テーマ	『歎異抄』にみられる親鸞の仏教観			
目的と概要	親鸞に大きな感銘を受けた唯円によって著された『歎異抄』を読みながら、その中に表される親鸞の仏教観をうかがっていきたいと思います。『歎異抄』は親鸞の書いたものではありませんが、前半部分は親鸞の言葉として表されていますので、言葉の一つ一つに親鸞の心が如実に表されていると思います。後半部分は、親鸞の教えを唯円なりの解釈でもって表現していきます。前半の文章も後半の文章も、それらは、現代にも生き生きとして語りかけているように感じられます。本講義では、『歎異抄』の後半部分(第11条～第18条)を読みながら、唯円と親鸞の心に触れてみたいと思います。			
成績評価法	総合評価(平常点・レポート課題の提出)			
テキスト	歎異抄／梯 實圓解説／本願寺出版社編			
参考書				
履修に当たっての注意・助言				
講義計画				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション: 講義の概略と進め方</li> <li>2. 『歎異抄』の構造</li> <li>3. 第11条: 阿弥陀仏の誓願(ねがい)と名号(名前)の関係について</li> <li>4. 第12条: 浄土往生に学問は必要か?</li> <li>5. 第13条: 薬があるからといって、毒を好んで飲む人がいるでしょうか?</li> <li>6. 第13条(続)</li> <li>7. 第14条: 念仏の回数は問題ではない</li> <li>8. 第15条: 煩惱を消滅させることができるでしょうか?</li> <li>9. 第16条: 「心をあらためる」とは、ただ一度だけあるものです</li> <li>10. 第17条: 真実と方便</li> <li>11. 第18条: お布施の多少は関係ない</li> <li>12. 後序: 歎異抄の総括</li> <li>13. まとめ(1)</li> <li>14. まとめ(2)</li> <li>15. 課題提出</li> </ol>				